

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成27年1月22日(2015.1.22)

【公開番号】特開2013-117624(P2013-117624A)

【公開日】平成25年6月13日(2013.6.13)

【年通号数】公開・登録公報2013-030

【出願番号】特願2011-264894(P2011-264894)

【国際特許分類】

G 0 3 G 5/047 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 5/047

【手続補正書】

【提出日】平成26年12月2日(2014.12.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

波長：[ $\mu\text{m}$ ] のレーザ光を発振するためのレーザ光源を有する露光手段、帯電手段、現像手段、転写手段及び電子写真感光体を有する電子写真装置であり、該電子写真感光体は導電性支持体上に少なくとも電荷発生層と電荷輸送層をこの順で設けてなり、

該電子写真感光体は、平均局所高低差 ( $R_{mk}$  [ $\mu\text{m}$ ]) の算出長さ ( $L$  [ $\mu\text{m}$ ]) 依存性を示すグラフにおいて、平均局所高低差 ( $R_{mk}$  [ $\mu\text{m}$ ]) の最大値 ( $R_{mk,max}$  [ $\mu\text{m}$ ]) が発現した算出長さ ( $L_m$  [ $\mu\text{m}$ ]) から0.1倍以下或いは10倍以上離れた算出長さの領域に、平均局所高低差 ( $R_{mk}$  [ $\mu\text{m}$ ]) の最大値 ( $R_{mk,max}$  [ $\mu\text{m}$ ]) 以下かつ該最大値 ( $R_{mk,max}$  [ $\mu\text{m}$ ]) の3分の2以上の平均局所高低差 ( $R_{mk}$  [ $\mu\text{m}$ ]) が発現し、かつ、下記式 (1)

【数 1】

$$R_{mk,max} \geq 0.25\lambda \left| \frac{n-1.0}{n+1.0} \right| \quad (1)$$

(式中、 $\lambda$  はレーザ光の波長[ $\mu\text{m}$ ]を示し、 $n$  は電子写真感光体の最表面層の屈折率を示す)

を満たす最表面形状を有することを特徴とする電子写真装置。

【請求項 2】

前記最表面形状は、前記平均局所高低差( $R_{mk}$  [ $\mu\text{m}$ ]) の前記算出長さ ( $L$  [ $\mu\text{m}$ ]) 依存性を示す関数 $R_{mk}(L)$ において、該 $R_{mk}(L)$ の重み付け平均値 $R_{mk,ave,l}$ が0.085 [ $\mu\text{m}$ ] 以下である請求項 1 に記載の電子写真装置。

【請求項 3】

平均局所高低差 ( $R_{mk}$  [ $\mu\text{m}$ ]) の最大値 ( $R_{mk,max}$  [ $\mu\text{m}$ ]) が発現した算出長さ ( $L_m$  [ $\mu\text{m}$ ]) が10 [ $\mu\text{m}$ ] 以下である請求項 1 または 2 に記載の電子写真装置。

【請求項 4】

平均局所高低差 ( $R_{mk}$  [ $\mu\text{m}$ ]) の最大値 ( $R_{mk,max}$  [ $\mu\text{m}$ ]) が0.18 [ $\mu\text{m}$ ] 以下である請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の電子写真装置。